

0317	N萩の港からは 日本海に浮かぶ島々へと向かう高速フェリーが毎日運航中。
0338	N海を渡り、向かう先はあの島です。
0347	Nフェリーに乗ること一時間あまり、 人口千人ほどの小さな島・見島にやってきました。
0400	N空から見てみると・・・なんだか牛のような形です。
0408	N実は、こじ 国の天然記念物に指定されている 和牛の産地として知られている島でした。
0424	N港から美しい棚田 <small>せなだ</small> の中をのんびり歩くこと二十分、 牛の放牧地にやって来ました。
0435	N遠くに綺麗な海が見える 青空の下、牛さんたちがおいしそうに草を食べています。
0450	N牧草地で牛に声を掛ける人に出会いました。 代々、この島の牛を育ててきた多田さんです。
0501	Nこちらが天然記念物の牛ですね？
0506	☆(N)見島牛 <small>みしまうし</small> ですね 和牛の原型です
0515	Nへえ。 どうしてこの牛が和牛の原型なんですか？
0523	☆(N)純血を守って来たからね 農耕で使ってた見島で活躍してきたからね 他の牛とは掛け合わせをしていない まさに純血ですね

0542	N室町時代、朝鮮半島から渡ってきた当時のままの見島ウシ。
0548	Nかつては農耕牛として家族同様に生活していました。
0555	☆(ON) 農耕に使ってた頃は 牛を食べるなんてもってのほかだった
0612	N戦後、農業の機械化とともに畑を耕す役目を終えた見島ウシは数が激減。 島内に六百頭いたという牛の数は現在、 わずか七十数頭だと言います。
0632	☆(ON) まずはメスの成牛100頭こつと 繁殖をどんどんこつとこつと
0709	☆ 今のままで保存保存だけではやっていけないので ☆ やっぱりの経済牛(肉牛)こつと 活用していけば何とか牛飼いとこつとこれから やっで行けるかなと思うんですけど
0731	N見島からは、 本土の萩市内に毎年わずか数頭のオスの仔牛 <small>こつと</small> を出荷。 オランダ牛と掛け合わされた牛が「見蘭牛 <small>けんらんぎゅう</small> 」として流通しています。
0742	N最古の純血を守るためには きめ細やかな牛の世話が大切です。
0752	N多田さんのお宅は、放牧地から歩いて 二十分ほどの所にあります。
0756	☆(ON) ズウズ Nお邪魔します。

0807	☆(ON) 見島の伝統の「鬼ようず」 凧ですけど見島では「ようず」と言います
0819	「これ、凧だったんですか。でもなぜここに？」
0824	☆(ON) 長男が誕生したとき 元気にのびのび育つように 家の繁栄を祝って大凧を作る
0839	「N多田さんの家の天井に掲げられた「鬼ようず」は 畳六帖分の大きさがあるそうです。」
0949	N七年前のお正月 孫の優之介君 <small>ゆきのすけ</small> の誕生を祝って作られました。
0901	N優之介君のお父さん 頭 <small>かぶ</small> 太郎さんにとっても大切な「おにようず」です。
0910	☆(ON) 親類とか友人とか全員のお 생각이 詰まった物なので それが絶えず家の天井で守ってくれる 心強い気持ちではありますね
0929	N鬼だけど、怖い鬼じゃないんだ。 家族みんなの幸せを見守る、 優しい神様なんですね。
0958	N夕暮れ時、 一家は港の脇にある小さな神社にやってきました。
1011	N一年に一度、夏祭りの時期の大事なお参りです。
1019	(ON) * 神主 <small>かみ</small> の参り

	<p>☆(ON) 家族みんなが健康に今年も過ごせるように 牛も家族だから 牛も元気で 出産するときは安産で生まれてほしい 穏やかに生活できるように 願っております 穏やかな毎日でありますように</p>
--	--